

韓国の英才教育の変遷

- 1969年 中学校の平準化
- 1973年 高等学校の平準化
- 1983年 科学高等学校の設立
- 1996年 韓国教育開発院（KEDI）に英才教育研究チームの発足
- 1998年 韓国科学財団（KOSEF）の支援で大学付設科学英才教育センターノ運営の始め
- 2000年 1月28日 英才教育振興法の制定
- 2002年 4月18日 英才教育振興法施行令の公布
→ 大学の科学英才教育センターを科学英才教育院で改称
- 2003年 3月 釜山科学高等学校を英才学校で転換、第1期入学式を挙行
- 2003年 6月 韓国教育開発院に英才教育研究院の設立

英才教育に対する国民の関心が拡大しているし、英才教育は活性化される趨勢である。

Korea Educational Development Institute （ソウル所在）

Korea Science and Engineering Foundation （大田所在）

Sheffield：数学英才性を定義する時には数学的創造性
がこの核心であると主張。

数学学習者を次のように分類する

数学文盲者（Illiterate）

盲目的計算者（Doer）

生きている計算者（Computer）

数学活用者（Customers）

問題解決者（Problem Solver）

問題発見者（Problem Poser）

創造者（Creator）

数学文盲者 (Illiterate)

盲目的計算者 (Doer)

数学的な概念に対する理解はないですが、簡単な計算ができる人

生きている計算者 (Computer)

算数の計算を間違わないし、試験の時高い点数を取る人

数学活用者 (Customers)

数学的概念を日常生活における問題解決で活用できる能力を持っている人

問題解決者 (Problem Solver)

答えも出せ、ある原則を適用するのが曖昧な状況でも、問題を解決できる人

問題発見者 (Problem Poser)

問題を出題できるし、定義と確認ができ、与えられた状況で重要な側面気付き、質問できる人

創造者 (Creator)

新しい数学を創造するために、自分がしていることについて、疑問を持ったり、新しい問題を発見するための努力をしたりができる人。

また、その疑問に答えるための数学を発見又は発明できる人。